

## 令和2年度第2回 秋田県地域訓練協議会 議事概要

日時：令和3年3月11日（木）  
14:00～15:00

- 1 開会・秋田労働局長挨拶
- 2 委員紹介
- 3 会長選出
- 4 議題
  - (1) 令和2年度公的職業訓練の実施状況について
  - (2) 令和3年度秋田県地域職業訓練実施計画（案）について
  - (3) 新たな雇用・職業訓練パッケージについて
  - (4) 意見交換
- 5 閉会

### 【議事概要】

- <議題（1）令和2年度公的職業訓練の実施状況について>
- <議題（2）令和3年度秋田県地域職業訓練実施計画（案）について>
- <議題（3）新たな雇用・訓練パッケージについて>

3つの議題を一括して、事務局から資料に基づき説明。（4）意見交換時に委員から意見等を求めた。

なお、議題（2）に関連して、秋田県が新たに実施する「秋田県労働移動奨励金」について、秋田県産業労働部雇用労働政策課 鈴木課長（秋田県産業労働部長猿田氏の代理出席）から、追加配付されたリーフレットにより説明が行われた。

- <議題（4）意見交換>

○渡部会長（秋田県立大学）

県の奨励金は、雇用した事業主ではなく、人出不足業種に就職した際に支給するという点では画期的。

会長が意見を述べたあとで、各委員に対し、県の奨励金や訓練パッケージ等について、事業主団体や労働組合にとっては、こういう業界であれば、受講生の確保ができるか、どのような訓練を設ければこれらの制度を使うのか訓練する側に対して、こういう訓練であれば使い勝手があるか等について委員に問いかけた。

●藤井委員（連合秋田）

訓練パッケージ（要件緩和部分）について、働く人と職場の意思疎通が図れるかが見えない。労働移動について、政策的には理解ができるが、緊急事態の中で、職種を変えて訓練を行うということが働く側と労働者の間で丁寧な対応をしていかないと双方で思っているものとは違うということが起こりかねない。ただ、訓練期間を等の緩和については緊急性を十分鑑みたものであると思うが、ケアをしっかりとしていかなければならない。

●佐藤満委員（秋田県中小企業団体中央会）

仕事と訓練受講の両立については、経営者もスキルアップは求めていきたいという思いであるが、なかなか両立に結びつけていけないという状況。スキルアップする場合であっても資格の話が出てくる。（配布資料の）求人者が求める資格を見ても高度な資格を求めている傾向にある。短期間の訓練ではなかなか追いつけないのでは。そこをどうしていくのか。経営者も体力があるとはいえないので、うまく活用する方法を経営者側も考える必要がある。

また、確かに建設・運輸は求人が多いものの、求職者が少ないので、当該業種への労働移動を図っていくということは当然のことであり、県が設ける「秋田県労働移動奨励金」はその一助になると思うが、介護職もかなり人出不足かつ離職者も多い。介護職に就職した者に対しても何かサポートできるものがあればありがたい。

また、事務の求職者が非常に多いが求人が少ない状況で、事務職を希望する等を人材不足分野への労働移動を図ることも検討すべき。そのためのインセンティブなどを設けるなど、検討してもいいのでは。

○渡部会長

せっかく就職してもすぐ離職してはもったいないので、経営者団体と連携して雇用管理の面からも考えていただければ。

県の奨励金についてはまず、やってみて、うまくいけばそれでよし。そうでなくとも事例を検証して、建設業以外例えば介護の分野なども加えるなどして行けばいいのでは。

○渡部会長

（吉田委員に対して）訓練する側では短時間・短期間の訓練でどれくらいの効果、満足度が得られると思うか。

●吉田委員（秋田県専修学校各種学校協会）

業種等によってばらつきはあると思うが、訓練生の適正や仕事に対する興味なども見極めながら実施すべき。短期間の訓練で企業側が求めるスキルに到達するかは難しいと思われるが、それに近づけるように学校側でも懸命に取り組むはずである。

●成田委員（県職業能力開発協会）

QRコードを用いたチラシやそこからアクセスを可能としているとりくみは、なかなか事業を若い人にPRできない状況にある中、また、従来の集客の多い施設でのポスター掲示をとりやめたということは、コロナ禍の中で改めて周知広報の仕方を考えさせられたという点で参考になった。

○渡部委員

訓練パッケージに限らず、経営者団体や労働組合においても行政や訓練実施機関等への意見や要望などを行っていただくようお願いする。

意見交換終了

令和3年度秋田県地域職業訓練実施計画（案）については、各委員からの異論はなく、了承を得られ協会は終了した。